

平成25年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

■船川港港湾管理者挨拶：秋田県知事 佐竹敬久 代理秋田県建設部次長 中村謙治

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、遠路はるばる秋田県男鹿市にお越しいただき誠にありがとうございます。

ご紹介いただきました、秋田県建設部次長の中村でございます。

本来であれば、船川港港湾管理者である当県知事の佐竹からご挨拶を申し上げるところではございますが、本日県議会の総括審査ということで出席かないませんでしたので、私の方から代わってご挨拶申し上げます。

この船川港は、男鹿半島南部に位置し、周囲は岩礁に囲まれて波浪が少なく、また北西に位置する西部山地が日本海特有の北西の風を遮る天然の良港でありまして、古くから背後地域の物流拠点として、あるいは沿岸航行船舶の避難港として利用されてまいりました。昭和26年には港湾法上の重要港湾に指定され、石油精製業、木材加工業等の地域産業の物流生産拠点として発展してまいりました。現在は15,000トン岸壁1バースを始め、4バースの公共岸壁とマリーナが整備されており、平成7年には世界最大級の地中式タンク12基と地上式タンク4基からなる約450万キロリットル規模の国家石油備蓄基地が完成し、国のエネルギー安全保障政策の一翼を担っております。近年では、築港100周年を迎えた記念すべき年である平成23年にその年に最も港の元気を高めた港湾としてポート・オブ・ザ・イヤー2011に選ばれるとともに、第1船入場、第2船入場の防波堤が間知石積み工法による大正・昭和初期の技術の面影を止めるとして土木遺産に選定されました。

さらに、今年7月には第10回の記念大会となった海フェスタのメイン会場となり、全国から93万人以上の方々にお越しいただき、船川港の存在を強くアピールしたところでございます。このように、船川港のさらなる発展を目指して官民を挙げた積極的な取り組みが行われており、船川港の重要性が増している中、船川港を擁するこの男鹿市において、本日、日本海にぎわい・交流海道ネットワークの総会が行われましたことは、誠に意義深いことと思っております。本日用られました総会とこの講演会・事例発表により日本海側各地域の連携がさらに進み、交流がますます盛んになることをご期待申し上げます。

あと、秋田県は今年の10月1日から12月いっぱいまでデスティネーションキャンペーンを行っております。今回男鹿に来ていただきましたが、またこの期間中に再度秋田の方に足を運んでいただいて、これから紅葉とか、きれいなシーズンになりますので、是非秋田を楽しんでいただければと思います。

最後に、本日お集まりいただきました皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申しあげまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

